


教育研究業績書

令和5年5月8日

氏名 奥本陽子 

教育上の能力に関する事項

事項	年月	概要
1 教育方法の実践例 1. アクティブ・ラーニングを導入した授業実践	令和2年～ 現在に至る	「生徒・進路指導論」や「教育学」の授業において、基礎理論を学習後、 <u>ジョハリの窓など他者と協同するワークをグループで行ったり、オープンダイアログなどの対話の方法を通して、「話す」と「聴く」を明確に分ける体験をしたりして、学生の言葉に対する感性を深めながら、各々の考えや思いを共有する時間</u> をもった。
2. ICTを活用した授業実践	令和4年～ 現在に至る	「特別活動論」において、学生が各自で選んだテーマについて、 <u>ウェブサイトアクセスして最新の情報や具体的事例を収集し、パワーポイントにまとめ、それを異なるテーマまたは同一のテーマでグループに分かれて複数回発表し、質疑応答や互いの発表を通して内容を洗練することで包括的な理解を深めた。</u>
2 作成した教科書・教材		特記事項なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価		特記事項なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項 1. 公立高校におけるクラス担任としての実績	平成12年～ 平成25年	公立高校において、 <u>1～3年までの持ち上がりで6年間クラス担任として、いじめ・暴力・不登校・性同一性障害など生徒の抱える様々な問題と向き合いつつ、学校行事や個別面談を通してクラスをまとめ、また専門教科（英語）の指導や進路指導、キャリア教育を通して卒業まで導いた。</u>
2. JASSO 大阪日本語教育センターにおける英語教育の実績	平成27～ 現在に至る	各国から来日する外国人留学生の英語クラスを担当し、TOEFLや入試対策だけではなく、 <u>専攻予定の学問や関心のある社会問題、出身国の文化について、個人やグループでパワーポイントやTED Talksを用いた様々な形態のプレゼンを行い、互いの文化的背景の違いを尊重しながら討議し、合意に至る機会を数多くつくった。</u>
5 その他 海外における環境教育に関する実績	平成22年～ 平成24年	JICA 青年海外協力隊に参加、配属先のタリハ教育委員会にて、 <u>教室の掃除、ゴミのリサイクル、コンポスト作りなどを中心とした環境教育プロジェクトを企画し、賛同した学校長、教員、生徒と共に活動する他、環境絵画コンクールや日本祭りなどを開催した。また、併設の教員養成機関で、半年間環境教育講座を担当した。</u>

様式第4号（教員個人に関する書類）

職務上の実績に関する事項		
事項	年月	概要
1 資格、免許	平成8年3月 平成8年3月	中学校教諭一種免許状（外国語） 高等学校教諭一種免許状（外国語）
2 学校現場等での実務経験 公立高校における教務部、企画研究部における実績	令和4年4月～ 現在に至る	公立高校において、 <u>京都府立高校入試問題（英語）作成</u> に携わる一方、 <u>教務部</u> で時間割や教科書担当として、教育課程や学校行事における調整を行い、また <u>企画研究部</u> で広報やPTA担当として、HPやパンフレットの作成、情報収集に従事し、 <u>近隣の小中学校の訪問と連携、PTA委員会への出席や各活動</u> に携わった。
3 実務の経験を有する者についての特記事項 競争的獲得資金（科研費）	平成12年～ 平成25年	令和4年度：研究分担者（新規）1件 令和5年度：研究代表者（新規）1件 令和5年度：研究分担者（継続）1件 ※研究代表者分・若手研究 「シュタイナー学校をモデルとした超越と言語に関する教育方法論の実証的研究」（23K12772）
4 その他		特記事項なし

担当授業科目に関する研究業績等

担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行 年月	出版社又は発行雑誌等の名称	執筆ページ数 (総ページ数)	概要
道徳教育論 (単独)	(学術論文等) 1. 「道徳教育における言葉に関する一考察—R. シュタイナーの「倫理的個性主義」と「善く語ること」からの視座 2. 「チャールズ・テイラーにおけるアイデンティティ—道徳的源泉としての「超越性」と「より繊細な言語」を巡って」	単 単	令和5年3月 平成28年2月	奈良女子大学教育システム研究開発センター 『ホリスティック教育研究』第19号	1～11頁 (11頁) 42-58頁 (17頁)	R. シュタイナーの「倫理的個性主義」とそれに根差した「善く語ること」という観点から、 <u>教師が心情理解やお題目、定義としてではなく、道徳的内容や価値について語るためにふさわしい言葉の在り方について考察し、道徳科の授業で用いる言葉に一つの理論的観点を提示した。</u> (査読あり) カナダの哲学者テイラーが <u>人間の意識の歴史的変遷を辿り、ヘルダーやガダマーに依拠しつつ論じた現代社会道徳や精神を巡る諸相を整理した。その上で、アイデンティティのもつ排他性を克服し、より包括的な在り様の獲得に向けて提示した「本来性」の概念や「より繊細な言語」の内実について明らかにした。</u>

様式第4号（教員個人に関する書類）

教育学概論 (単独)	(学術論文等) 1. 「シュタイナーの「直観的思考」——思考を通して超越に触れる道」 (査読付)	単	平成 30 年 11 月	『教育哲学研究』第118号	1-19 頁 (19頁)	(査読あり) <u>教育という営みをアイデンティティの形成と変容であると捉え、そのために不可欠な超越との関係を、感情の領域ではなく、理性の領域の事柄として捉え直すために、シュタイナーにおける知覚、意志、感情、思考、理念、直観などの概念とそれらの間の連関や構造を整理し、教育における思考の新たな意義を明らかにした。</u>
	2. 「チャールズ・テイラーにおけるアイデンティティ——道徳的源泉としての「超越性」と「より繊細な言語」を巡って」	単	平成 28 年 2 月	『ホリスティック教育研究』第 19 号	42-58 頁 (17 頁)	(再掲のため、略)
教育原理 (単独)	学術論文等) 1. 「シュタイナーの「直観的思考」——思考を通して超越に触れる道」 (査読付)	単	平成 30 年 11 月	『教育哲学研究』第 118 号	1-19 頁 (19 頁)	(再掲のため、略)
	2. 「チャールズ・テイラーにおけるアイデンティティ——道徳的源泉としての「超越性」と「より繊細な言語」を巡って」	単	平成 28 年 2 月	『ホリスティック教育研究』第 19 号	42-58 頁 (17 頁)	(再掲のため、略)
生徒指導論 (単独)	(学術論文等) 1. 「シュタイナーにおける言語の構造的な理解——「語り」の人間形成的意義を問い直す」	単	令和 2 年 3 月	『人間社会学研究集録（大阪府立大学）』第 15 号	29-50 頁 (22 頁)	(査読あり) <u>シュタイナー教育が「語り」を中心に据えた教育実践を持つことに注目し、その背後にある言語観の全体像を検証し、<u>言語の人間形成における意義と可能性を明らかにした。</u>さらに日常の散文や学問の論理的言語と詩的、超越的言語の補完関係を整理し、教室にお</u>

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	2. Enlivening Thinking and Speech in Search of Spiritual Identity: The role of “speech formation” in Steiner’s Waldorf education	単	平成31年 3月	International Journal of Children’s Spirituality. Vol. 24. No. 1.	83-96 頁 (14 頁)	ける教師と生徒の対話や、アイデンティティの変容、人間関係構築のための言語について考察した。 (査読あり) シュタイナーの思考、言語、発達論を検証し、その授業実践への具体的実現を考察することで、教室における対話の場がいかに準備されているかを明らかにした。とりわけ「言語造形」と呼ばれる方法論の検討を通して、教師が生徒の発達段階に合わせて事物や事象を映像的に描写することで、生徒の理解や思考、対話が現実 ^に 根差したものになることを明らかにした。
教師論 (単独)	(学術論文等) 1. 「シュタイナーにおける言語の構造的な理解——「語り」の人間形成的意義を問い直す」	単	令和2年 3月	『人間社会学研究集録 (大阪府立大学)』第15号	29-50 頁 (22 頁)	(再掲のため、略)
	2. Enlivening Thinking and Speech in Search of Spiritual Identity: The role of “speech formation” in Steiner’s Waldorf education	単	平成31年 3月	International Journal of Children’s Spirituality. Vol. 24. No. 1	83-96 頁 (14 頁)	(再掲のため、略)
	(教育実践記録等) Yoko Okumoto & Hanako Ikeda, Constructing Dialogical Relationship for Self-transformation,	共	令和元年 10月	発表要旨集録 “Holistic Education for Peace” 365-371 頁	365-371 頁 (7 頁)	学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」が想定する対話による「深い学び」を巡る議論が十分でないことを踏まえ、教師と生徒双方の自己変容につながる対話について、シュタイナーの言語論とナラティブ・アプローチの観点から検証した。語りえないものに焦点をあてるという両者の共通点に注目し、対話的な学びを促進するための方法論を検討した上で、シュタイナー教育の

様式第 4 号 (教員個人に関する書類)

	Gyeongin National University of Education, Korea					「言語造形」とフィンランド発の オープンダイアログを用いた 1 時間の参加型のワークショッ プを実施した。
教職実践演 習 (栄養教 諭) (複数)						
事前・事後 指導 (複数)						
栄養教育実 習 (複数)						
教職演習 I (複数)						